

高校生のための

街なかオープンカレッジ

オープンカレッジとは！ ————— 2

多彩な分野で、先生、市民、自治体からの講義

トーク、ワークショップ、フィールドワーク ——— 3

岐阜経済大学、岐阜大学地域科学部

岐阜市立女子短期大学の紹介 ————— 10

岐阜県内の3大学の連携事業 ————— 13



高山(2009.11)



郡上(2011.10)

岐阜(2009.3,8
2010.8, 2011.8)

大垣(2009.3,8)

多治見(2010.10)



岐阜経済大学 岐阜大学地域科学部 岐阜市立女子短期大学 連携事業

岐阜県 県内各市 地域団体などの後援 ネットワーク大学コンソーシアム岐阜

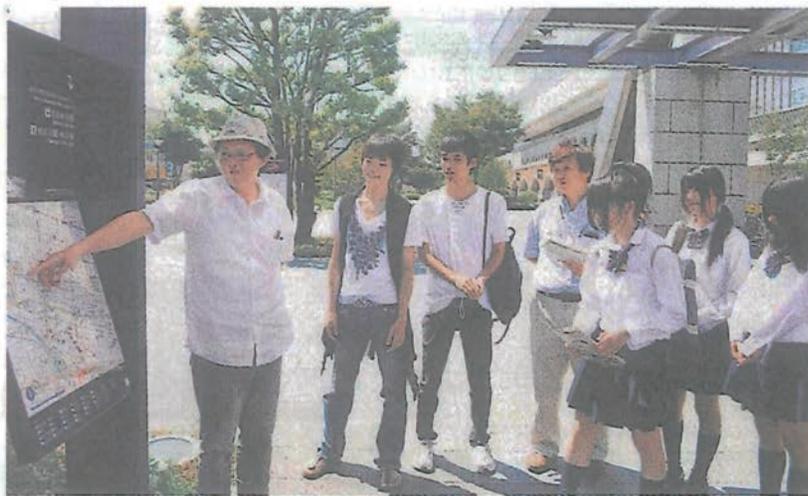
高校生の皆さんは、受験、進学に向かって、
 どのような大学や学部で学びたいのか、いろいろと考えていると思います。
 岐阜経済大学、岐阜大学地域科学部、岐阜市立女子短期大学が共同で開催している
 このオープンカレッジでは2つのことを皆さんに伝えたいと思っています。

① 皆さんが思っている以上に、多彩な分野から学ぶことができます
 経済学・経営学・まちづくり・自治・環境・文化・社会・食・デザイン

市場、人間、まちづくり、インターン、福祉、エコロジーなどの多彩なテーマを取り上げて、
 いろいろな分野からの見方とその違い、討論などを通じて、
 高校とはまた違った大学での学び方について、実際に身近に体験してもらいたいと思っています。

② 大学から、その先で待っている就職や、社会や地域にも目を開いていこう

大学で学んで、そのさらに先には何があるのかも、想像してみませんか。
 社会に出てから、就職はもちろん、コミュニティとどう関わっていくのか、
 もっと開かれた視点や、長い目で見てみたらどうでしょうか。
 企業や市民の皆さん、若者の定着を図ろうとしている県内の自治体とも連携して、
 県内各地で、地域に開かれたオープンキャンパスを開催しています。



岐阜大学地域科学部 域連携プロジェクト
 と岐阜経済大学、岐阜市立女子短期大学の地かオープンカレッジ

大学の魅力、高校生体感

岐阜市でオープンカレッジ

岐阜大など
 3大学共同

が18日、岐阜市橋本町のアクティブG内にあるネットワーク大学コソシーラム岐阜・岐阜駅サテライト教室などで開かれ、約20人が参加した。
 高校生らに、県内の大学で学ぶ魅力と、大学で地域や社会の課題をどのようにとらえているかを伝えようとする大学共同で企画した。
 大学と行政、地域とのかかわりなどについて大学教授らが講義したほか、「街なかのにぎわいの作り方」をテーマに岐阜大学地域科学部の富樫幸一教授ら

大学教授や大学生らと街中を散策する高校生
 岐阜市加納栄町通、JRR岐阜駅南口

が案内役となって同市の中心市街地を巡るタウンウォッチングも行われた。

受講した岐阜市の女子高校生は「大学では、机上の学問以外の学びが多いことを知った」と話し、各務原市の男子高校生は「大学での学びが、地域の活性化につながっていることを実感した。大学では、社会に出てから学ぶことに役立つことを多く吸収したい」と話していた。
 次回同カレッジは10月31日、多治見市で行われる。

(神保絵利子)

2010年8月19日
 岐阜新聞社提供

プログラム：2009年3月～2011年10月 これまでのテーマ、先生方などです

大垣市・岐阜市：2009年3月

後援：岐阜県、大垣市、(社)岐阜県経営者協会、(財)岐阜市にぎわいまち公社

——高校生のための 街なかオープンカレッジ——

大学で学ぶことは何なの？ 大学の先に、社会や地域で何が待っているの！ 学生や市民も参加…

大垣/マイスター倶楽部会場：3月26日(木)	岐阜/あい愛ステーション：3月27日(金)
<p>午前の部：10時～11時半</p> <p style="text-align: center;">① 市場経済と人間の共感</p> <p style="text-align: center;">—アダム・スミス、ケインズを読み直してみよう—</p> <p>あいさつ：木村隆之 司会：鈴木誠(岐阜経済大学)</p> <p>■ <u>竹内章郎(岐阜大・哲学)</u></p> <p>今の市場の問題を省みるために、商品のやり取りを支える人々の「心のやり取り」が、つまりは真剣な理性の働きと一体の共感が成立する「本来の市場？」について、経済学の父アダム・スミスの『道徳感情論』を素材に考えたい。</p> <p>□ <u>池永輝之(岐阜経済大・経済学)</u></p> <p>リーマンブラザーズの破綻に端を発した金融危機は、アメリカにとどまらずヨーロッパ、アジア、日本を巻き込み、世界同時不況の様相を呈し、深刻な事態をもたらしています。</p> <p>80年前にも世界は大恐慌を経験しました。この大恐慌を通じて経済学は大きな変化を遂げました。一国経済全体を対象とするマクロ経済学の誕生です。マクロ経済学の創始者J.M.ケインズの名著『雇用・利子および貨幣の一般理論』を手掛かりに、経済学とはどんな学問なのかをお話してみたいと考えています。</p>	<p>午前の部：10時～11時半</p> <p style="text-align: center;">① 岐阜の企業の魅力に迫る</p> <p style="text-align: center;">企業で働くということ—インターンシップと就職</p> <p>あいさつ：高橋 弦 司会：富樫幸一</p> <p>□ <u>竹内治彦(岐阜経済大・社会学)</u></p> <p>この時間では、岐阜県に本社を置く企業の面白さについて、① 創業者精神と② ニッチ、という2点からお話します。以前、大学院の講義で岐阜県経営者協会から幹部社長の皆様に派遣いただき講義をお願いしました。その時、拝聴した興味深いお話を紹介します。また私自身、VENTURE Link という雑誌で「県内の中小企業は皇帝ペンギン」という記事を書いていて、この変なタイトルの意味を説明しながら県内企業について解説します。</p> <p>■ <u>伊原亮司(岐阜大・社会学)</u></p> <p>地元岐阜の経済を支えている企業で労働者はどのような働き方をしているのでしょうか？ 職場の実態は、書いてあるモノを読んだり、働いている人に聞いたりすることで理解が深まりますが、本講義は、インターンシップやアルバイトを利用し、自ら働くことで見てくる職場のリアルな姿をお話します。</p>
<p>午後の部：13時～15時半</p> <p style="text-align: center;">② コミュニティと商店街の未来</p> <p style="text-align: center;">—芸術と文化によるまちの創造戦略—</p> <p>司会：富樫幸一(岐阜大学)</p> <p>ミニ講演：</p> <p>『元禄芭蕉で市街地まちづくり—大垣中心市街地の近未来』</p> <p>□ <u>堀 富士夫(岐阜経済大学副理事長)</u></p> <p>地方都市の市街地における空洞化が進んでいます。全国の多くの町で、その再生は大きな課題です。優遇政策を掲げ、企業誘致を進めるだけでなく、地域内再投資力を高め、人間都市として魅力あるまちにするためには、どんなことが考えられますか。</p> <p>中心市街地衰退の経緯や要因を解明し、狭義の中心街再生(商店街振興)にとどまらず、「持続可能なまちづくり」による「協働型コミュニティ」を社会目標に置いた社会経済システムのあり方について考察を進め、「地方都市・中心街のにぎわい再構築」、および「都心コミュニティ再生」の条件と可能性を展望してみましょう。</p> <p>大垣における「芭蕉元禄ミュージアム回廊構想」を具体的に提案します。</p> <p>ミニ討論会</p> <p>◇ <u>平松和夫(NPO法人まち創り)</u></p> <p>□ <u>菊本 舞(岐阜経済大学地域連携推進センター)</u></p>	<p>午後の部：13時半～16時</p> <p style="text-align: center;">② 環境とサステナビリティ</p> <p style="text-align: center;">—エコロジーとエコノミー—</p> <p>司会：鈴木誠</p> <p>□ <u>森 誠一(岐阜経済大学・生態学)</u></p> <p>環境問題を背景に、岐阜県を中心とした地域環境の特性からどういった取り組みができるのか考える。例えば、美濃地方には木曾川、長良川、揖斐川という大川河川存在から発生した水都思想が培われてきた。その北西部に形成された多くの扇状地を伏流した水は扇端で湧き水として地表に湧き出し、池や小川となっている。このことから、美濃地方は一大湧水群となっており湧水帯にもよって、より多様な淡水生態系を形作っている。このような「川国」美濃の特性を活かした水都復活を目指す新たな現代的な指針を、具体的な事例を取りあげながら議論していく。</p> <p>コメント：<u>向井貴彦(岐阜大・生物学)</u></p> <p>■ <u>三井 栄(岐阜大・経済学)</u></p> <p>「サステナビリティ」と経済学が果たす役割をめぐって、ゴミ減量から地球温暖化対策までさまざまな環境に関する問題について、経済学の側面から考察します。なかでも、炭素税や排出量取引制度などの環境政策を具体的にに取り上げ、その効果をみていきたいと思います。</p>

高校生のための 街なかオープンカレッジ 2009.8

岐阜／あい愛ステーション：8月17日（月）	大垣／岐阜経済大学：8月18日（火）
<p>午前の部：10時～11時半</p> <p>① スポーツ経営と地域経済</p> <p>■ スポーツ経営学—先進プロスポーツクラブの事例研究から (大野貴司・岐阜経済大学経営学部講師)</p> <p>経営学という学問が誕生して百年余。その対象は企業のみならず、病院や大学、そしてスポーツ組織などにも拡張されています。本講義では、経営学という視角からスポーツ組織、ひいてはスポーツのあり方を考えていく「スポーツ経営学」について、プロスポーツを中心に考えていきます。</p> <p>□ 地域経済効果 (三井 栄・岐阜大学地域科学部准教授)</p> <p>スポーツを「する」「みる」「支える」ことにより、私たちは様々な恩恵を受けています。「健康」への効果に加え、家族、友人、地域住民とのコミュニケーション向上や地域再生などの「地域活性化」による経済的な波及効果について考えてみたいと思います。</p>	<p>午前の部：10時～11時半</p> <p>③ 地域福祉とソーシャルワーク</p> <p>□ 地域福祉計画の作り方（S市の例） (高木和美・岐阜大学地域科学部教授)</p> <p>「いのちとくらしを守り、一人ひとりが輝くまちづくり」をめざしたある市の地域福祉計画を、わかりやすく紹介します。計画を作るために、どのような人たちが集まり、どのように暮らしの声をつかんでいったか、調べたことを生かしてどのような計画を作ったか一緒に学びたいと思います。</p> <p>■ ソーシャルワークの考え方 (山田武司・岐阜経済大学経済学部准教授)</p> <p>ソーシャルワークとは、社会福祉の相談援助のことです。「相談」というと、カウンセリングや心理療法を思い浮かべますが、ここでは、ソーシャル（社会）との関係がキーワードになります。このソーシャルワークを、ケースワーク（個別援助）を中心に、皆さんと一緒に考えていきましょう。</p>
<p>午後の部：13時～15時半</p> <p>② デパートの誕生と今、学生とまちの活力</p> <p>□ デパートの誕生 (内田 勝・岐阜大学地域科学部准教授)</p> <p>19世紀フランスの作家エミール・ゾラは、パリのデパートを舞台にした小説を書き、若く貧しい女子店員の恋と出世を描くとともに、急成長を続けるデパートの画期的な販売戦略や、地元商店街との軋轢（あつれき）もまたリアルに描写しています。古い小説を題材に、現代に通じる問題を考えてみましょう。</p> <p>■ 学生の力をまちの活力に ～岐阜経済大学マイスター倶楽部の挑戦 (菊本 舞・岐阜経済大学地域連携推進センター 池上宜志・マイスター倶楽部4年生)</p> <p>大垣駅前の商店街の中に、マイスター倶楽部が、学生のまちづくり活動の拠点として誕生してから10年が経ちます。学生たちは、商店街をはじめ地域の方と様々なイベントや調査研究等の「まちづくりプロジェクト」を実施してきました。学生がまちなかで果たしてきた役割やこれからの可能性について、具体的なまちづくり活動の紹介をしながらお話しします。</p>	<p>午後の部：13時～15時半</p> <p>④ 商品開発・起業・まちづくり</p> <p>■ 商品開発・起業 (田中裕介・田中屋せんべい総本家専務 野松敏雄・岐阜経済大学経営学部教授)</p> <p>田中屋せんべい総本家は創業、安政6年、150年の歴史を誇る大垣の老舗です。歴史の中で培われ現代に生きる商品開発の心構えとその仕組みについて簡単にお話します。そして、起業や経営革新を考える場合にも、この商品開発がビジネスアイデアやビジネステーマとも密接に関係します。商品開発による起業・経営革新の取り組みについてもお話します。</p> <p>□ 中心商店街の役割と魅力 (富樫幸一・岐阜大学地域科学部教授)</p> <p>かつては「肩が触れ合う」ほど賑わっていた柳ヶ瀬なども、大型店の撤退や空き店舗の増加で空洞化しています。高校生の皆さん自身も、おとずれることが少なくなっているかもしれません。街なかでの買物に必要な役割と、ユニークなお店と人の魅力、人と人のつながりについて調べてみませんか。</p>

大学生、高校生のまちあるき



ハートフルスクエア-Gでファッションショー

高校生のためのオープンセミナー in 飛騨 2009

2009年1月1日（日）午前の部：10時半～11時半

■**大学で学ぶ、その魅力と醍醐味**（林 正子・岐阜大学地域科学部教授・日本近代文学）
どの大学に進学しようか、どの学部で勉強しようか、そもそも大学で学ぶことの意義は
いったい何なのか、皆さん迷っていらっしゃるのでは？ 大学での勉強がいかに役立つのか、
その可能性について、人文学・文学・地域学・郷土学などを題材としてご紹介します。
（気軽に話のできる相談コーナーを設けます。）

午後の部：13時～15時半

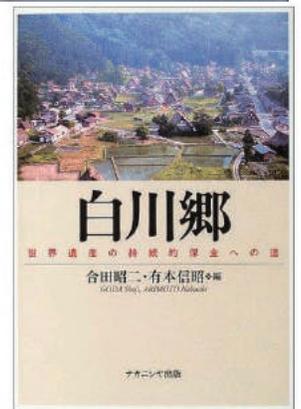
□**若者参加による中心市街地の魅力づくりー地元課題の解決型まちづくりの魅力と方法**
（鈴木 誠・岐阜経済大学教授・地域経済論）

高校生や大学生が参加した中心市街地や商店街の活性化が注目を集めています。地元の生
徒や学生でなくてもボランティア学習の一環で商店街再生に腕を磨く『よそ者』も増えて
います。いったい何が魅力なのでしょう。若者参加による地元課題解決を目指した起業・
商店街再生の全国事例と方法を考えましょう。

■**観光、交通、交流**（竹内伝史・岐阜大学地域科学部教授・都市計画論）

少子高齢化とともにゆとりある心豊かなくらしが希まれる成熟した時代、地方の地域では
「地方の良さ」を発揮できる、交流に根ざした地域づくりが求められる。福祉を支える交流、
文化を育む交流、新しい産業の種としての交流。なかでも、地域の人々のくらしと共にあ
る新しいタイプの観光産業が注目される。ここでは、これを「スローツーリズム」という
概念の下に考えてみたい。

○高校生、市民、行政の職員などを交えたフリートークをします



2009年11月2日 朝日新聞社提供

「大学は地域で」熱いメッセージ

岐阜大地域科学部と岐阜経済大が連携した公開セミナー「高校生のためのオープンセミナー in 飛騨」が1日、高山市の飛騨・世界生活文化センターであった。午前の部では、岐阜大の林正子教授（近代文学）が、「大学で学ぶ、その魅力とだいご味」と題して講演。「地域」をキーワードに学ぶ意味を語った。

林教授は、「地域研究」や「地域主義」などを巡る、文学者や社会学者らによる定義や主張を紹介。「自分と世界

岐大・岐経大が高校生向け講習会

とのつながりを探究していくこと、それが学問」と明快に語り、「そのかけがえのない自分自身の要素に生まれ育った土地がある」と指摘した。ノーベル賞を受けた大江健三郎さんが、生まれ育った森を基盤に小説世界を作り上げたことを紹介。「場所の力」として「地域」を語った。

林教授は、飛騨地域の代表的文学として、江馬修の「山の民」や江夏美好の「下々の女」などを挙げた。「過酷な自然を生きてきた人たち、そ

のことを大事に思う人たちが芸術作品にした。自分自身の原点を探る時、文学にも接してほしい」と話した。

1時間の講演の後、司会の鈴木誠・岐経大教授が「自分が生まれ育った高山について、面白い町と改めて思えたり、自信を持てたりした人は手を挙げて」と促すと、半数ほどの手がすぐに挙がった。

看護系を進路に考えている私立高山西高1年のKさん(16)は、あこがれの東京での進学を考えていたが、講演を聴いて「地元もいいと思えてきた」と話していた。

（中沢一議）

岐阜経済大学・岐阜大学地域科学部・岐阜市立女子短期大学

『ふるさと多治見 & 東濃・再発見 with ユニバーシティズ』

■まちなかオープンキャンパス

大学で学ぶことは何なの？大学の先に、社会や地域で何が待っているの？こういう疑問や関心をもつ中学生や高校生へのヒントとなる大学の出張まちなかキャンパス授業です！

大学入学前の若者たちに岐阜県内の大学で学ぶ意義を伝えると共に、学んだことを活かして多治見市や東濃地域で夢を持って、豊かな地域社会の担い手に育ってもらうことを目標に、岐阜経済大学・岐阜大学地域科学部・岐阜市立女子短期大学の3大学が共同で開催する地域連携事業です。

■対象：東濃地域の中学生と高校生、一般（意欲・関心のある中高生は他地域からの参加も可能です）

■プログラム

<午前の部> 10:00-12:00 講義&トークセッション

開会挨拶 木村隆之岐阜経済大学教授

講義1 古川雅典多治見市長「日本一アツイまち多治見の産業革命元年」

講義2 林正子岐阜大学副学長「大学で学ぶ、その魅力と醍醐味」

3大学の学生によるトークセッション

「先輩は語る、岐阜の大学ってすごい！—こんなに役立つ私たちの大学—」

<昼食> 12:00-13:00 昼食は各自お弁当を持参ください

<午後の部> 13:00-15:30 ワークショップ&フィールドワーク

ワークショップ・・・中学生は地元企業経営者とのワークショップを通じて地域再発見をめざします

フィールドワーク・・・高校生は多治見の街のフィールドワークを通して地域、大学での学びの楽しさ、深さを学びます

成果発表 ワークショップ&フィールドワーク各チームの成果発表と質疑

開会挨拶



日時：2010年10月31日(日) 10:00~15:30
会場：多治見市学習館（まなびパーク）+フィールドワーク
（岐阜県多治見市豊岡町 1-55 TEL0572-23-7022）



地元企業経営者会から起業精神や郷土愛について学ぶ中高生ら—多治見市学習館で

中学生が市長や地元企業経営者と交流し、将来の地域貢献について考えるイベント「ふた」。

市長や経営者と交流
古里の良さ中高生考える

多治見

地域の良さを知って、県内での大学進学や就職を進めようと、岐阜経済大、岐阜大地域科学部、岐阜市立女子短期大が、多治見市政七十周年企画として共同開催。東濃・可児地域から中高生五十人が参加した。

午前の部では、古川雅典市長による市政解説講座を開催。「企業誘致を進め、働く場を提供する」と話した上で、「みなさんには将来の地域社会を担って

「東濃地域だからできた起業の秘話」をテーマに、起業時の苦労や郷土愛を熱弁。中高生たちは時折、質問を挟みながら、熱心にノートへ筆を走らせていた。

(植木創太)

2010年11月1日
中日新聞社許諾済

プログラム

午前の部 10:00—12:00 講義と学生によるトークセッション

■講義1 古川雅典多治見市長

「日本一アツいまち多治見の産業革命元年」

「40.9℃の日本最高気温を記録した多治見市は、企業誘致・地場産業である陶磁器とタイルの高付加価値化・日帰り観光の強化など、税収をしっかりと確保することで教育や福祉を充実させてまちの元気を復活します。」



■講義2 林正子岐阜大学副学長「大学で学ぶ、その魅力と醍醐味」

「大学進学を控えた生徒の皆さん、生涯学習を考えていらっしゃる社会人の皆さんに、『地域学としての郷土文学研究』の意義や楽しさをお伝えしたいと思います。岐阜・東濃・多治見という『地域を学問する』魅力と醍醐味をともに味わってみませんか。」



■3 大学の学生によるトークセッション

「先輩は語る、岐阜の大学ってすごい！—こんなに役立つ私たちの大学—」

午後の部 13:00—15:30 ワークショップ&フィールドワーク

■ワークショップ・・・中学生は地元企業経営者とのワークショップを通じて地域再発見をめざす

(講師) 岩村龍一氏 (株式会社コミュニティタクシー)

伊藤克紀氏 (株式会社カネコ小兵製陶所)

肥田和明氏 (株式会社C-POWER)

「中学生の皆さんを対象とするワークショップでは、多治見市や東濃地域で「やりがいのある仕事や会社を自分の力で起こし、地域の発展や人々の役に立ちたい」と考え活躍する企業経営者の方々と意見交換会を行います。3人の講師のもとに、それぞれ10名程度に分かれてグループを作り講師の経営者の皆さんが、多治見や東濃地域で会社を起こした際の夢や苦勞、どのように人々や郷土の発展に役立っているかなどを、熱心に語っていただけます。岩村龍一さんは、多治見市で「コミュニティタクシー」を経営。2006年に経済産業省から「地域貢献賞」を、2009年には「日本タクシードライバー大賞 2009」審査員特別賞を受賞されました。伊藤克紀さんは、大正10年創業の窯元の経営者で、現在土岐市で「美濃焼」を製造販売。働きやすい職場と美しい「やきもの」製造に日々挑戦しています。肥田和明さんは、多治見市でデザイン会社を経営。優れた芸術センスを磨き上げ、現代美術家協会で新人賞を受賞するなど、アーティストとしても活躍しています。この3名の優れた経営者の方々に「多治見市や東濃地域だからこそ挑戦できた起業の秘話」を、ぜひ聞いてみましょう。

■フィールドワーク・・・高校生は多治見の街でのフィールドワークを通じて地域、大学での学びの楽しさ、深さを学ぶ

(講師) 柳田良造氏 (岐阜市立女子短期大学教授)

富樫幸一氏 (岐阜大学地域科学部教授)

「街に出て、陶器のまち多治見市のシンボルとなるオリベストリート等でフィールドワークを行い、グループに分かれて街発見の成果のまとめと発表を行います。」街並み、街発見のフィールドワークにぜひ参加してみよう。



まちあるきのワークショップのまとめを発表



多治見をフィールドワーク

高校生のための街なかオープンカレッジ 2010.8.18



柳ヶ瀬でのオープンカレッジの様子

8月18日(水) 午前の部：10時～11時半

①ファッションとまちづくり (村上真知子・岐女短)

「ファッションのまち岐阜」って？ 第2次世界大戦の終戦後、岐阜の復興とともに発展してきた岐阜のファッション産業は、今どんな状況にあるのでしょうか。なんとなく謎めいた駅前問屋街を覗いてみると、その栄枯盛衰の歴史を垣間見ることができます。岐阜の発展を支えてきた産業の歴史とこれからの課題を一緒に考えてみませんか。

②知的探究心で「豊かなまちづくり」に貢献する、

岐阜経済大学ソフトピア共同研究室的挑戦！

(佐々木喜一郎・岐経大地域連携推進センターコーディネーター)

ソフトピア共同研究室は、産[情報産業]・官[岐阜県、大垣市、岐阜市]・学[岐阜経済大学]の連携のもと、ICTを基盤とした共同研究や先端技術の開発、地域におけるICT化の推進を目的として活動しています。学生たちは、「まちづくりと情報技術」をテーマとして、地域の情報化や地域情報を発信する仕組みづくりに取り組んできました。この成果や今後の可能性について、開発したソフトウェア及びシステムの体験コーナーを開設し、具体的に紹介します。

午後の部：13時～15時半

③街なかの賑わいの作り方 (柳田良造・岐女短、富樫幸一・岐阜大)

岐阜市の駅前、再開発を通じて大きく変貌しています。鉄道、バス、自転車などで高校生の皆さんも利用しているでしょう。どんな考え方によって「まち」を作っているのか、住民や訪れる人にとっての使い易さや魅力は何なのか。

市民、学生、行政の皆さんと一緒に、大学での学び方の一つとしてタウンウォッチングとワークショップを体験しませんか。

『高校生のための街なかオープンカレッジ 2011 in 柳ヶ瀬』

■高校生のための街なかオープンカレッジとは

高校生の皆さんは、受験・進学に向かって、どのような大学や学部で学びたいのか、いろいろと考えていると思います。大学で学ぶことは何なの？大学の先に、社会や地域で何が待っているの？こういう疑問や関心をもつ高校生へのヒントとなる岐阜経済大学・岐阜大学・岐阜市立女子短期大学が共同で開催する大学の出張街なかオープンカレッジ授業です！

■プログラム

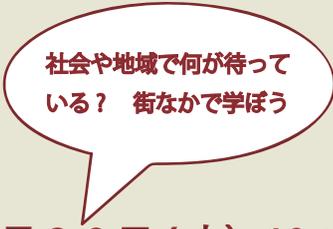
<午前の部> 10:00～12:00 講義&トークセッション
 講義1 内田勝岐阜大学教授「デパートの誕生」
 講義2 菊本舞岐阜経済大学准教授「大垣の中心市街地活性化とマイスター倶楽部の取り組み」
 トーク 上田哲司やながせ倉庫代表「柳ヶ瀬で養蜂づくり」

<昼 食> 12:00～13:00 昼食は各自お弁当を持参ください

<午後の部> 13:00～15:30 ワークショップ&フィールドワーク
 講師 富樫幸一岐阜大学教授・柳田良造岐阜市立女子短期大学教授
 ワークショップ・・・柳ヶ瀬街歩き再発見
 フィールドワーク・・・街なかの賑わいの作り方
 成果発表・・・・・・・・ワークショップ&フィールドワークの成果発表と質疑



午前は、内田勝(岐阜大学)「デパートの誕生」、菊本舞(岐阜経済大学)「大垣の中心市街地活性化とマイスター倶楽部の取り組み」の2つのミニ講義と、上田哲司(やながせ倉庫)・富樫幸一(岐阜大学)「トーク:柳ヶ瀬で養蜂づくり」、午後の部はフィールドワーク「街なかの賑わいの作り方」・ワークショップ「柳ヶ瀬街歩き再発見」でした。参加者数は30名程度(高校生、大学生、職員など)と多くはありませんでしたが、NHKでその様子が放映され、中日新聞の取材(岐阜市中心地版)で取り上げられるなどの反響を呼びました。アンケート結果でも全員が「たいへんよかった」と答えており、「町を回ってとても楽しかったです」「今まで以上に地域に密着しているなど思うようになりました」「さまざまなお話が聞けて楽しかったです」「じゃがいもドーナツにまた行きたい(美殿町のパタータに寄ったので)、などの感想が寄せられました。



日時：2011年8月20日(土) 10:00～15:30
 会場：柳ヶ瀬あい愛ステーション+フィールドワーク

10時～11時

□郡上を学び、地域で生きる（松田之利・東海学院大学学長）

11時～12時

□高校生と大学生の交流 三大学の学生、郡上高校のOB/OGを交えたトーク

13時～15時

■ 4つの教室に分かれてのミニ講義

・勝田美穂（岐阜経済大学・経済学部）「公共政策のすすめ」

公共性とはどのようなものでしょうか。ある人にとって公共的なものが、ある人にとっては公共的でないということになる。ここでは公共性をめぐる不可思議な世界に案内しつつ、「問題を社会で解決すること」について学びます。

・大野貴司（岐阜経済大学・経営学部）「地域とスポーツ」

この講義では、JリーグNo.1の人気を誇る浦和レッズの経営と地域密着への取り組みの検討から、みなさんとスポーツが持つ地域活性化への可能性について考えていこうと思います。これを機会にみなさんが住んでいる岐阜と岐阜のスポーツについて考えてみましょう。

・小野廣紀（岐阜市立女子短期大学・食物栄養学科）「地域と食」

郡上地域に産する材料を活かした食を、歴史や地域性から具体例を交えて考察する講義です。みなさんの身近にある野に咲く草や花などからもどんな食材や薬が生まれるか考えてみましょう。

・三崎和志（岐阜大学地域科学部・哲学）「sexとgender」

同性愛に対する考えを出発点にして、自分たちの性や愛に対する意識を見つめ直すこと、そしてこれまでよりも多面的なものの見方ができるようになればいいと思います。

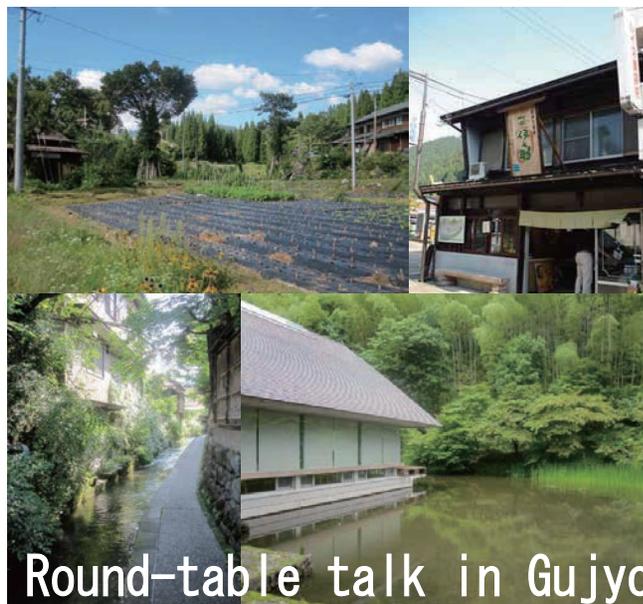
□郡上八幡のフィールドワーク まちなか歩きとマップづくりのワークショップ（柳田良造・岐女短、富樫幸一・岐阜大）

郡上高校への出前授業として、事前に協議を進めて、内容、構成などを確認し、約40名の生徒さんが参加され、校長先生を始め、教頭先生、諸先生がたにも一緒に聞いて頂きました。午前、松田之利（東海学院大学学長）「郡上を学び、地域で生きる」では、郡上一揆や明治維新の凌霜隊に触れて「郡上魂」を持つことを生徒に呼びかけられ、岐阜経済大学・岐阜市立女子短期大学の学生（郡上高校卒業者も含む）のトークでは、学生生活の様子が紹介されました。

参加した生徒からの感想は「郡上についての講義が面白かった。大学の先生による話や、先輩の話を聞いてとてもためになった」、「堅苦しくなく楽に話が聞けたので楽しかったです。」「専門的なことを深く学べて、高校とは違った授業の雰囲気やいろんなことを考えさせられる場だと思った。」などでした。

「郡上地域づくり座談会」

「町家 伊之助」をお借りして開催しました。村瀬由加里さん（地球救い隊）は、割りばしプロジェクトや原発のこと、願蓮寺などでの地域づくりの活動、女性として、母として地球を考えるグローバルな考えを、平野彰秀さん（石徹白地区地域づくり協議会）は、石徹白（白鳥町）に移住し、マイクロ水力など全国に情報を発信している取り組みを、堀義人さん（ムスプログ）は、デザインの仕事をしながら人を結ぶネットワークづくりに取り組んでいることを、それぞれ熱く語られました。郡上の周辺地域や岐阜市から見た郡上のことなどが話されましたし、郡上市の中でのつながりが、同時に流域を通じ人の繋がりとともに重なっていて、環境などグローバルな視野へと広がっていることが共有される場となりました。



Round-table talk in Gujyo

郡上地域づくり座談会

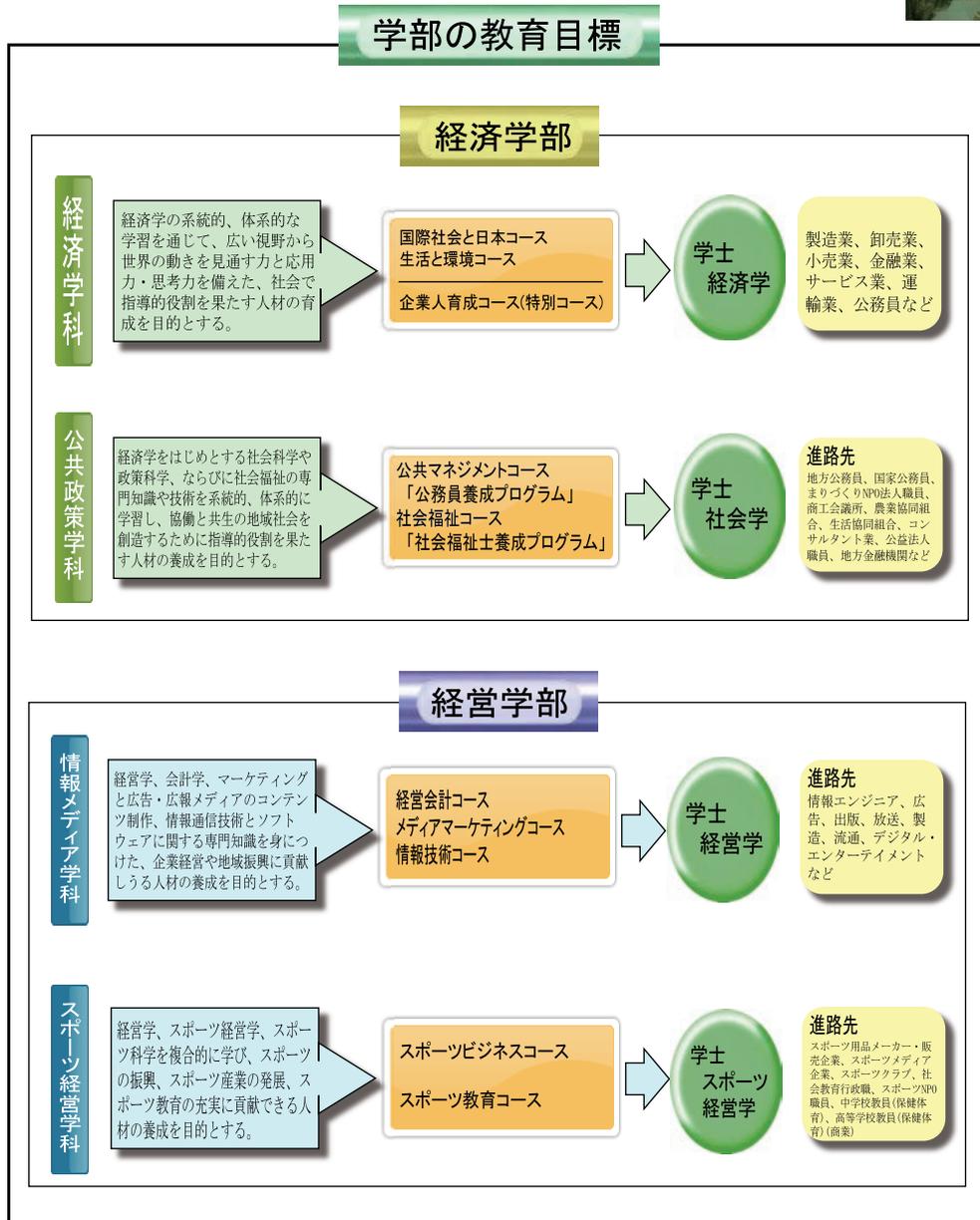
日時：2011年10月28日（金） 19:00～20:30
会場：町家 伊之助（郡上市八幡町島谷 520-1）

村瀬由加里（地球救い隊）
平野彰秀（石徹白地区地域づくり協議会）
堀義人（ムスプログ）
コーディネーター 富樫幸一（岐阜大学） 柳田良造（岐阜市立女子短期大学）

主催／岐阜経済大学・岐阜大学地域科学部・岐阜市立女子短期大学

岐阜経済大学

—充実したゼミ教育・地域実践教育・キャリア教育により、
経済・経営の専門知識に加え、コミュニケーション力・人間力が身につく大学—



平成24年度スタート PAC (Program for Advanced Career) 「発展職業プログラム」



岐阜経済大学 まちなか共同研究室 「マイスター倶楽部」

大垣商工会議所の「空き店舗対策モデル事業」として、1998年10月にスタートしました。当初は、岐阜経済大学、大垣駅前商店街振興組合、大垣地域産業情報研究協議会（大垣市と大垣商工会議所が共同で運営する調査研究組織）の3者による「まちなか共同研究室」でした。2006年2月には、大垣市、大垣商工会議所、大垣市商店街振興組合連合会、岐阜経済大学の4者により「中心市街地活性化のための4者協定」が締結され、中心市街地活性化のため4者が連携・協力し、プロジェクトを推進しています。

ソフトピア共同研究室

ソフトピア共同研究室は、産[地域情報産業]・官[岐阜県、大垣市、岐阜市]・学[岐阜経済大学]の連携のもと、ICTを基盤とした共同研究や先端技術の開発、地域におけるICT化の推進を目的として活動しています。岐阜経済大学の学生約20名が在籍し、企業、NPO、県・市職員の方々とミーティングを行い、システム構築、ソフトウェア開発、プロジェクトマネジメントに取り組み、実践的なスキルの向上を目指しています。また、様々な研究会や学会において成果報告を行い、創造的な人材を育成しています。

岐阜市立女子短期大学



■教育目標

岐阜市立女子短期大学は創立 65 周年を迎える、全国でも最も伝統ある公立の短大で、「岐女短」として愛されてきました。有為な学生が全国から集まり、教員一人あたり8人以下という恵まれた条件のもと、きめ細やかな少人数教育を、厳しくもまた楽しい環境で行っています。こうしたキャンパス・ライフは私たちの生活の基礎と質をしっかりと支える食と健康、快適な居住空間等の創造的なデザイン、そして豊かな国際感覚とスキルに裏打ちされた異文化交流などの魅力ある諸課題を担う人間＝ひとへと成長する過程でもあります。

■学科構成

英語英文学科

英語コミュニケーション能力を身につけ、英語と英米文化に関して理解を深めることで未知なる発想様式に目を開き、国際感覚を養い、国際社会や地域社会で積極的に活躍できる人材を養成。

国際文化学科

世界の多様な文化や価値観を理解し、言語コミュニケーション能力や情報コミュニケーション能力を身につけ、国際化・情報化した現在の社会において積極的・主体的に活躍できる人材を養成。

食物栄養学科

人々の健康維持・増進を図ることを目的に、人体、疾病、食品関係など幅広い分野の専門知識を身につけ、健康な食生活を企画・実践できる人材と、地域社会において栄養指導などに積極的役割を果たせる栄養士を養成。

生活デザイン学科

ファッション、建築・インテリア、グラフィックなどの分野において、素材選定から設計、制作に至るデザインの専門知識や技能を身につけ、人々の生活環境の向上に活躍できる人材の養成。

■地域交流事業

岐阜市立女子短期大学は地域に開かれた大学として、大学内での教育・研究活動以外にも様々な地域交流事業、市民向けの講座などの取り組みが行われています。そのいくつかを紹介しましょう。

●公開講座

平成 23 年度の公開講座のメインテーマは『鵜飼を科学する』として、5 回連続の講座が 4 月～ 6 月に岐阜市生涯学習センターと共催で開催されました。1300 年の歴史を有すると言われる鵜飼は、川を舞台とした地域の生業と生活の関わりの深い民俗であり、世界に類をみない貴重な生活遺産でもあります。この岐阜長良川を象徴する鵜飼を学際的に - 歴史、民俗、文化、衣食、環境と現場の鵜匠の視点 - から捉え、改めて「鵜飼を科学する」ことをねらいとする公開講座でした。平成 24 年度もメイン公開講座テーマ『ユニバーサルデザイン』など、様々講座が開催予定です。

●岐阜のアパレル産業活性化に向けてー岐阜マザーズコレクションの試み

岐阜伝統のアパレル産業、ファッション産業が衰退する中で、その活性化に向けて本学の生活デザイン学科が取り組む地域連携事業です。岐阜市間屋町を主体とする岐阜ファッション産業連合会青年部が、岐阜のアパレル産業の長期衰退傾向を打破すべく 2010 年に産学協働プロジェクトとして立ち上げたのが「岐阜マザーズコレクション」。東京ガールズコレクションとも神戸エレガンスコレクションとも差別化し、ミセス層をターゲットとしたコレクションを立ち上げ、岐阜アパレルの特徴をアピールするのがその狙い。学生の母親から祖母世代に当たる 45 歳から 65 歳の女性たちをモデルに、学生たちが母親世代に贈るファッションをショー形式で発表するというもの。2011 年の第 2 回は、岐阜県毛織工業協同組合等の協力により地元産地の素材を使うことで、岐阜産地の打ち出しを強化し製作からプロモーションまでの戦略の一貫性をはかった展開を行いました。



●Win-win ゼミ

草取りなどの畑作業や野菜づくり、五平餅づくりなど地域との協働で「食」と「食育」の試み。食物栄養学科の学生を中心に全学の学生と学生の母親が参加。

ねらい：学生を人間的に伸ばしたい。失敗しても大丈夫、と言うことをわかってもらいたい。お金がすべてではないことをわかってもらいたい。食べものは生き物だということを知ってもらいたい。人と人がつながって社会ができていくことをわかってもらいたい。

方法：春から秋まで、夏休みを含め、授業のない日に作業。めやすは 1 週間ほど、基本は無料。作業内容は学生と地域の受け入れ先で相談して。岐阜市一日市場の平田さんの楽しい畑：岐女短の隣のお宅。着付けの先生もして、着付け教室の行事には学生をモデルとして使ってくださいました。5 月のイチゴのシート掛けと、6-8 月のしそドリンク作り、モロヘイヤの乾燥。

チュラサンガ：合渡小学校の南、円成寺。不登校・引きこもり・精神障がいといわれる人たちが社会と向き合えるように、そしてそのことで地域が活性化し「村おこし」にもつなげられるように活動している組織。5-9 月。草取り、長いも植えつけ、玉ねぎ収穫、枝豆選別。

本巣郡北方町のかえる農園：若い有機農家でサラリーマンから就農した人。学生は 5-8 月、雨の日を除いた毎週 1 日自転車を通う。学生が幼児と仲良くなったのもお互いの収穫のひとつ。作業は多岐に今の農業の問題点、農作業そのもの、農作業の意味など、多くのことが勉強。

豊田市の野田味噌商店：五平餅作り社長から「Win-win なんてありえない。Lose-lose ならやりましょう。」という返事をいただいて、「Win-win ゼミの lose-lose 講座」として開催。9 月～ 10 月に座学、五平餅製造・販売。

岐阜大学地域科学部

Faculty of
Regional Studies

地域科学部は1996年10月に設立された、全国でも「地域」の名称を持つ最初の学部の一つです。

社会科学・人文学から外国語・外国文化、自然環境まで、それぞれの専門のコースとともに、多角的な分野からも学ぶのが特色です。

地元企業や自治体などへの就職率も高く、地域社会の中でOG、OB達は活躍しています。



地域政策学科 Department of Regional Policies

持続可能な循環型社会の創造を視野に入れつつ、まちづくりの創造的なプランナーを育成するために、自治体を含む社会の歴史的・構造的把握と、その分析方法や政策形成の修得とを関連づけた教育研究を行います。

産業・まちづくりコース

地域の内発的発展とナショナル・グローバルなネットワークの共存関係を追及する視点から、都市圏や中山間地域、ものづくりと流通・サービスなどの地域問題を解決するために政策形成の基礎となる専門的能力の育成を図ります。

自治政策コース

分権時代に入った今日、自治体の意思決定システムを見直して、住民参画やNPOとの協働などの新たな市民的コミュニケーション関係を構築していかなければなりません。そのためのアプローチを研究することによって、新しい自治の担い手を育成します。

環境政策コース

理科系コースで、物質や生物の基礎から、動植物の調査、環境中の化学物質の性質、エネルギーの供給、都市環境等にいたるまで学びます。さらに、経済・社会・法律とも関連させながら、専門的で広い応用力を持つ人材を育てます。

地域文化学科 Department of Regional Culture

生活・社会コース

大きく変貌してきたコミュニティはどうすれば活力を取り戻せるのか、地域社会をめぐる歴史と文化を含めた総合的・比較的研究の基盤に立って、市民的コミュニケーションを再構築し、まちづくりを担える人材を育みます。

人間・文化コース

コミュニティは独自の文化を受け継ぐと同時に、つねに他の社会と接触して、互いに啓発することから活力が生まれます。グローバル化の時代に相応しい伝統の再生と新たな創造の可能性を研究する創造的担い手を育成します。

■カリキュラムの特色

卒業研究における理論と実証の総合

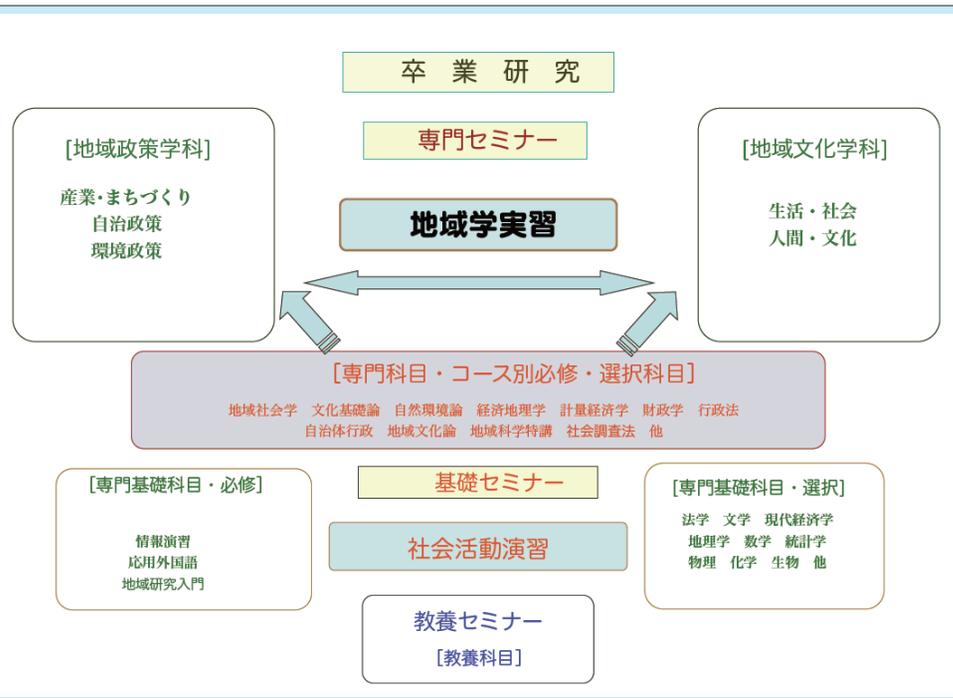
地域学実習による調査・問題解決力の習得

2年半の専門セミナーを通じた少人数教育

基礎セミナーや外国語、情報演習、
社会調査法によるスキルアップ

1年次の社会活動演習を通じて、
モチベーションを高める

地域科学への導入としての地域研究入門



●地域学実習を通じた、地域との連携

地域科学部では3年生の全員が地域学実習を行います。企業や自治体などでのインターンシップ、歴史博物館での史料調査、民族博物館学習、都市農村交流体験、河川環境調査など多様な分野に分かれます。地元の岐阜市での調査もすでに12年を数え、商店街、再開発、インナーシティ、郊外団地や公営住宅、伝統的な町並み保全、近郊農業、エコツーリズムなど、地域ごとの課題に取り組むと共に、住民の皆さんとの協力でまちづくりのお手伝いもしています。

連携事業の沿革

岐阜県内の高校生のために、各地の高校や街なかに出かけて、大学で学ぶことや、地域との関わりを伝えてきました。

- 2009年 3月 高校生のための 街なかオープンカレッジ 大垣会場 岐阜会場 (この冊子の3ページ)
 <当初は、岐阜経済大学と岐阜大学地域科学部とでスタート>
- 2009年 8月 高校生のための 街なかオープンカレッジ 岐阜会場 大垣会場 (4ページ)
- 2009年 11月 高校生のための オープンセミナー in 飛騨 2009 (5ページ)
- 2010年 8月 高校生のための 街なかオープンカレッジ 岐阜会場 (岐阜駅 ACTIVE G) (8ページ)
 <この事業から岐阜市立女子短期大学が加入>
- 2010年 10月 ふるさと多治見&東濃・再発見 with ユニバーシティズ (6-7ページ)
- 2010年 11月 岐阜経済大学・国立大学法人岐阜大学地域科学部、岐阜市立女子短期大学連携協定書締結
- 2011年 8月 高校生のための 街なかオープンカレッジ 2011 in 柳ヶ瀬 (8ページ)
- 2011年 10月 高校生のための オープンカレッジ in 郡上 (9ページ)

岐阜経済大学・国立大学法人岐阜大学 地域科学部、岐阜市立女子短期大学 連携協定書 (抜粋)

目的

それぞれの特色ある教育分野を活かしながら、地域社会、とりわけ岐阜県の地域社会の発展とそれを担う人材の育成に寄与することを目的とする。(第1条)

連携・協力内容

- (1) 人材育成に関すること。
- (2) 教育、文化及び福祉に関すること
- (3) 地域活性化、まちづくりに関すること
- (4) 産業及び科学技術に関すること
- (5) その他前条の目的を達成するために必要な分野に関すること

(第2条)



協定書に調印した岐阜経済大学谷江幸雄学長、岐阜大学地域科学部口藏幸雄学部長、岐阜市立女子短期大学松田之利学長(写真左から)＝岐阜市一日市場北町、同短大

調印後、谷江学長は「県内高校生の約8割が県外の大学に進学している。各校の特徴を生かし、若い人に岐阜の大学で学ぶことに魅力を感じてもらえるよう、連携事業を進展させたい」、口藏学部長は「個々の大学」としてではなく「岐阜」の大学として地域発展のための人材育成に力を注ぎたい。県内他大

岐阜経済大学、岐阜市立女子短期大学は30日、「地域社会の発展と人材育成の連携・協力の調印式」を開催。今回、正式に協定を結んだ。調印式は同短大(岐阜市一日市場北町)で行われ、岐阜経済大学の谷江幸雄学長、岐阜大学地域科学部の口藏幸雄学部長、同短大の松田之利学長が協定書を交わした。

人材育成で連携協定

岐経大、岐阜大、岐阜女子短大

たい、松田学長は「人づくりはまちづくり。地域社会発展のため、岐阜の大学から、岐阜の魅力を発信していければ」と連携の思いを語った。

(神保絵利子)
 2010年12月1日
 岐阜新聞社提供

問い合わせ先:

岐阜経済大学 企画広報課

〒503-8550 大垣市北方町 5-50

代表:TEL 0584-77-3505 FAX 0584-81-7807

kikaku@gifu-keizai.ac.jp

岐阜大学地域科学部

〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1

代表:TEL 058-293-3002 FAX 058-293-3008

chiiki@gifu-u.ac.jp

岐阜市立女子短期大学

〒501-0192 岐阜市一日市場北町 7-1

代表:TEL 058-296-3131 FAX 058-296-3130

こんな本を書いた先生方が登場します



岐阜県の高校生の皆さんへのメッセージ

自分のこと、岐阜のこと：岐阜、大垣、高山、多治見、郡上・・・、
みんなが自信をもって話せるようになろう。

大学で学ぶこと、実習やまちづくりで経験すること、
将来の自分の生き方のために、地域の人たちとともに生きていくために。

岐阜県の高校生の多くは、名古屋をはじめ、他の地域で学んでいます。
一度は家族や地元を離れて、自分の力で生きるのもいいでしょう。

でも岐阜には、

長良川や木曾川、揖斐川、飛騨や奥美濃の山々の自然、
歴史的な文化や町なみ、ユニークな地場産業や先端的なものづくり、
そして、住みやすい環境があります。

自分の地域を誇れることは、自分自身の力になり、
他の地域や海外とも、つながりを深めることができます。

岐阜県の三大学が連携して、県内各地で行ってきたオープンキャンパスは、
岐阜の高校生や大学生が、地域で働き、まちづくりの担い手となってくれることを
熱望している、地元企業や自治体、NPO や住民の皆さんとともに続けています。

地元の大学や学部の先生方と、身近に語り合う機会を持って、大学で学ぶことに触れ
先輩の学生たちと、学生生活について語り合い、
企業や自治体、市民の皆さんとは、地域の未来を語り合う場として、
街なかオープン・カレッジのシリーズは行われています。



人口減少時代の地方都市再生
一般都市にみるサステナブルなまちづくりー
合田昭二・白藤久・山崎仁朗・富樫幸一

参加した高校生の皆さんの感想から
堅苦しくなく楽に話が聞けたので楽しかったです
町を回ってとても楽しかったです
今まで以上に地域に密着しているなと思うようになりました
先輩の話を聞いてとてもためになった
専門的なことを深く学べて、高校とは違った授業の雰囲気
気でいろんなことを考えさせられる場だと思った